

復興まちづくりに関する住民説明会

5月23日（水） 18：30～20：30 中央公民館2階大ホール

5月24日（木） 18：30～20：30 坂元公民館3階大会議室

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 復興事業説明
 - ・「今後の住まいに関する個別面談」の結果
 - ・新市街地整備について
 - ・災害公営住宅の整備について
 - ・防潮堤、県道相馬亘理線の整備について
- 4 国土利用計画について
- 5 常磐線の復旧計画について
- 6 意見交換
- 7 閉会

【配布資料】

資料1 復興事業説明 ……………P. 1～P. 7

資料2 国土利用計画について ……………P. 8～P. 9

復興事業説明

1. 「今後の住まいに関する個別面談」結果の概要

(1) 個別面談の概要

- 平成 24 年 1 月 23 日（月）～2 月 24 日（金）
- 対象者：2,703 世帯

(2) 来場世帯数

- 1,747 世帯（65%）
（内 訳）

・災害危険区域（第 1 種・第 2 種区域）	1,143 世帯／1,463 世帯（78%）
・災害危険区域（第 3 種区域）、区域外	604 世帯／1,240 世帯（49%）

(3) 個別面談結果

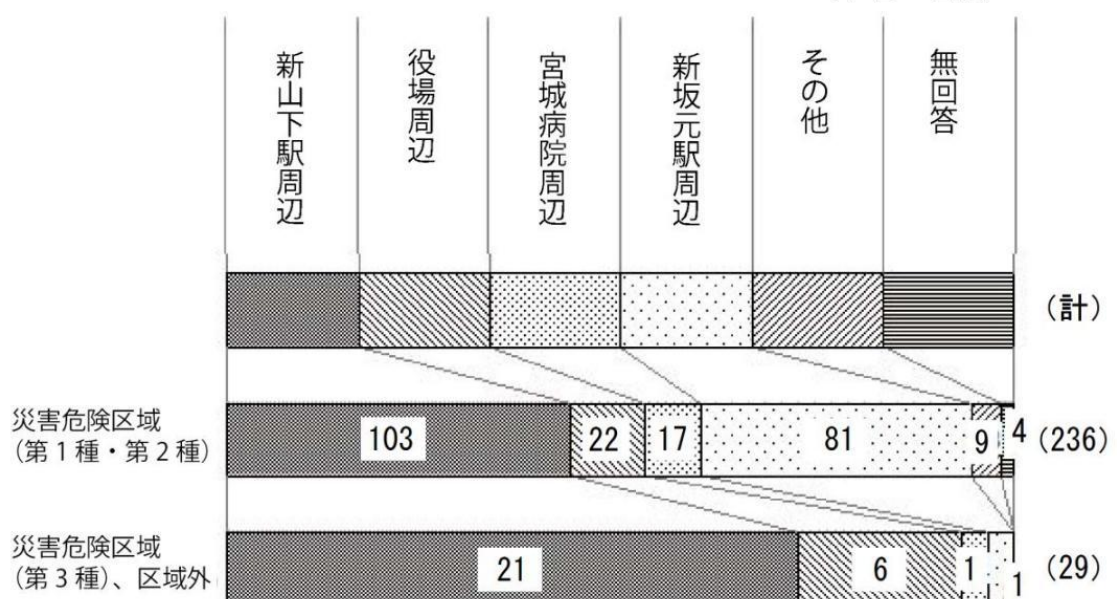
- 回答数（今後の住まいの再建方法）

（単位：世帯）

	住宅団地へ移転	災害公営住宅へ移転	町内移転	町外移転	元場所 で修繕	元場所 で新築	その他	計
災害危険区域 （第 1 種・第 2 種）	236	348	122	234	48	14	141	1,143
災害危険区域 （第 3 種）、区域外	29	162	16	63	194	64	76	604
合計	265	510	138	297	242	78	217	1,747

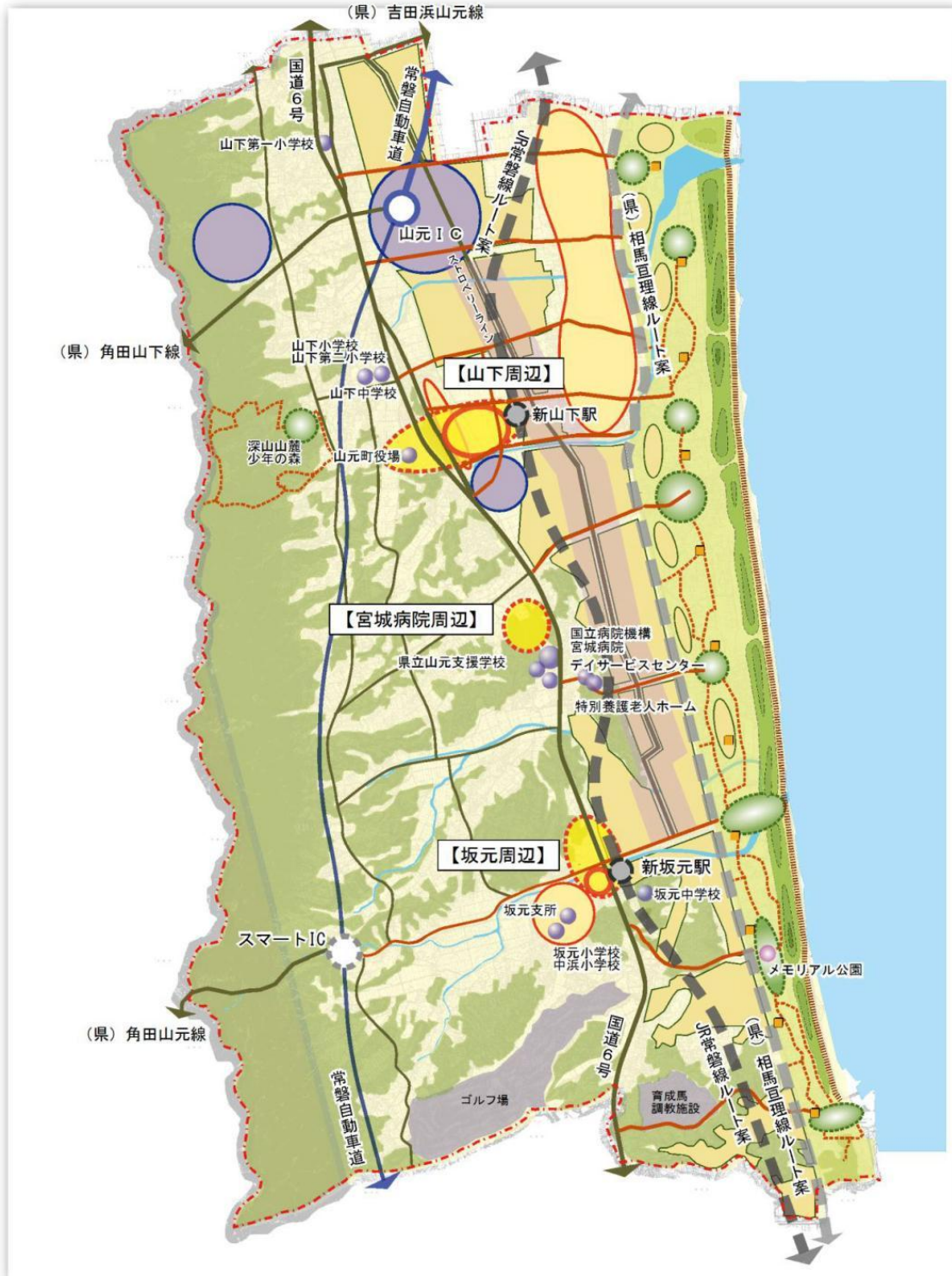
- 「住宅団地へ移転」の内訳




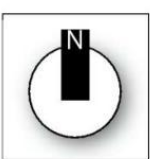









（単位：世帯）



2. 新市街地整備について

新市街地の概略位置図



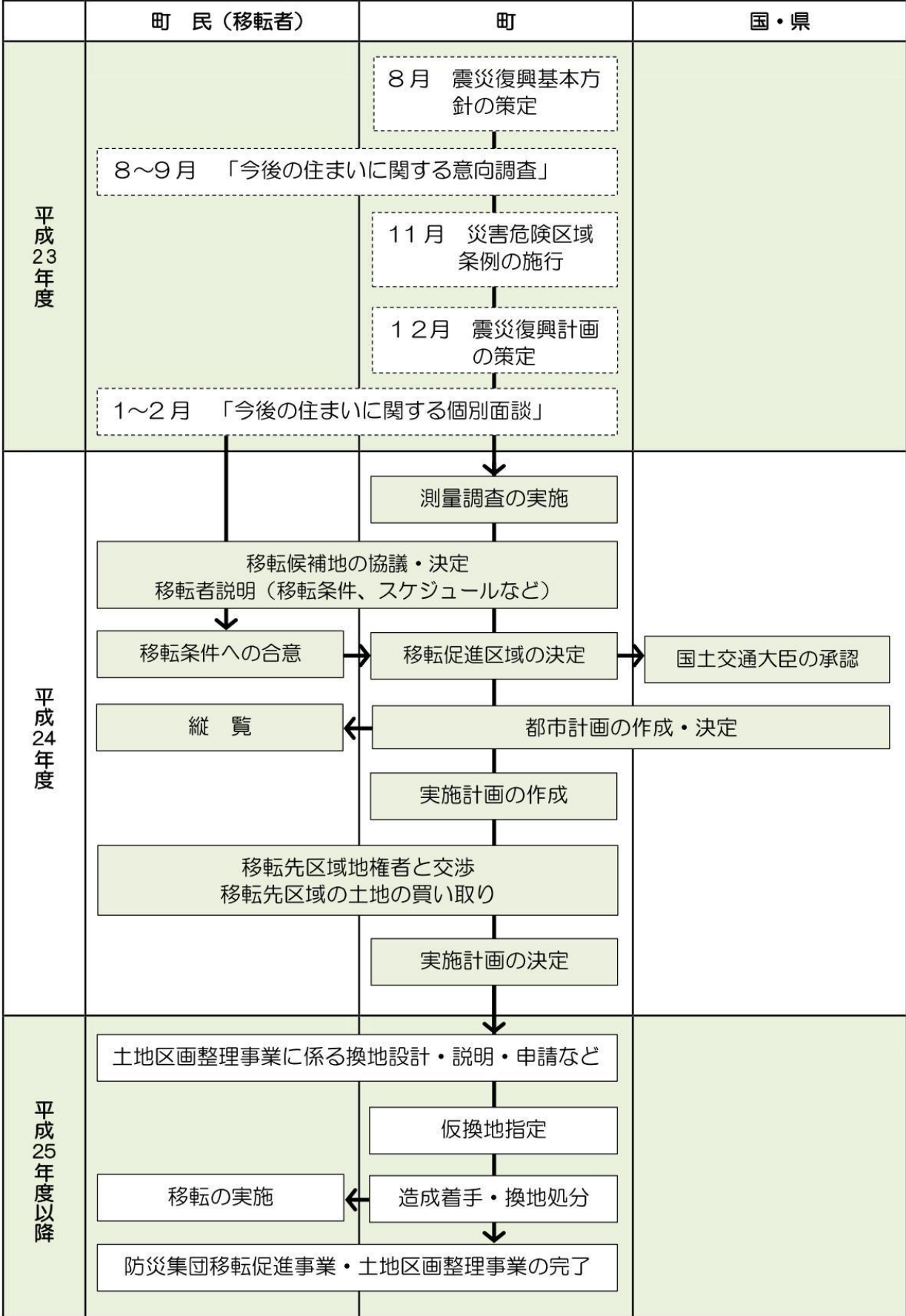
	新居住用地		第1次産業用地ゾーン (農業生産(再生)用地)		町内ネットワーク (整備道路、避難路) (国道・県道・町道(既設))	
	産業系用地		防災緑地ゾーン		防波堤・防潮堤	
	医療福祉関連施設 集積エリア		交流ゾーン用地		散策路等	
	既存集落		いちご等施設園芸 集積エリア		避難ビル	

新駅を中心とした市街地整備イメージ



イメージ図です。
施設内容、配置については現在検討中。

新市街地整備のスケジュール



※上記スケジュールは予定で、今後、必要に応じて見直すことがあります。

3. 災害公営住宅の整備について

災害公営住宅は新市街地内及び新市街地周辺に建設予定で、第1期工期地区（下図参照）の建設は、平成25年3月末の完成・入居を予定しています。

【第1期工期の建設概要】

■建設戸数（予定）

- ①山下災害公営住宅地区
 - ・50戸
- ②坂元災害公営住宅地区
 - ・20戸

■住宅の形態

- ・2戸1棟の連棟式を予定

■整備状況

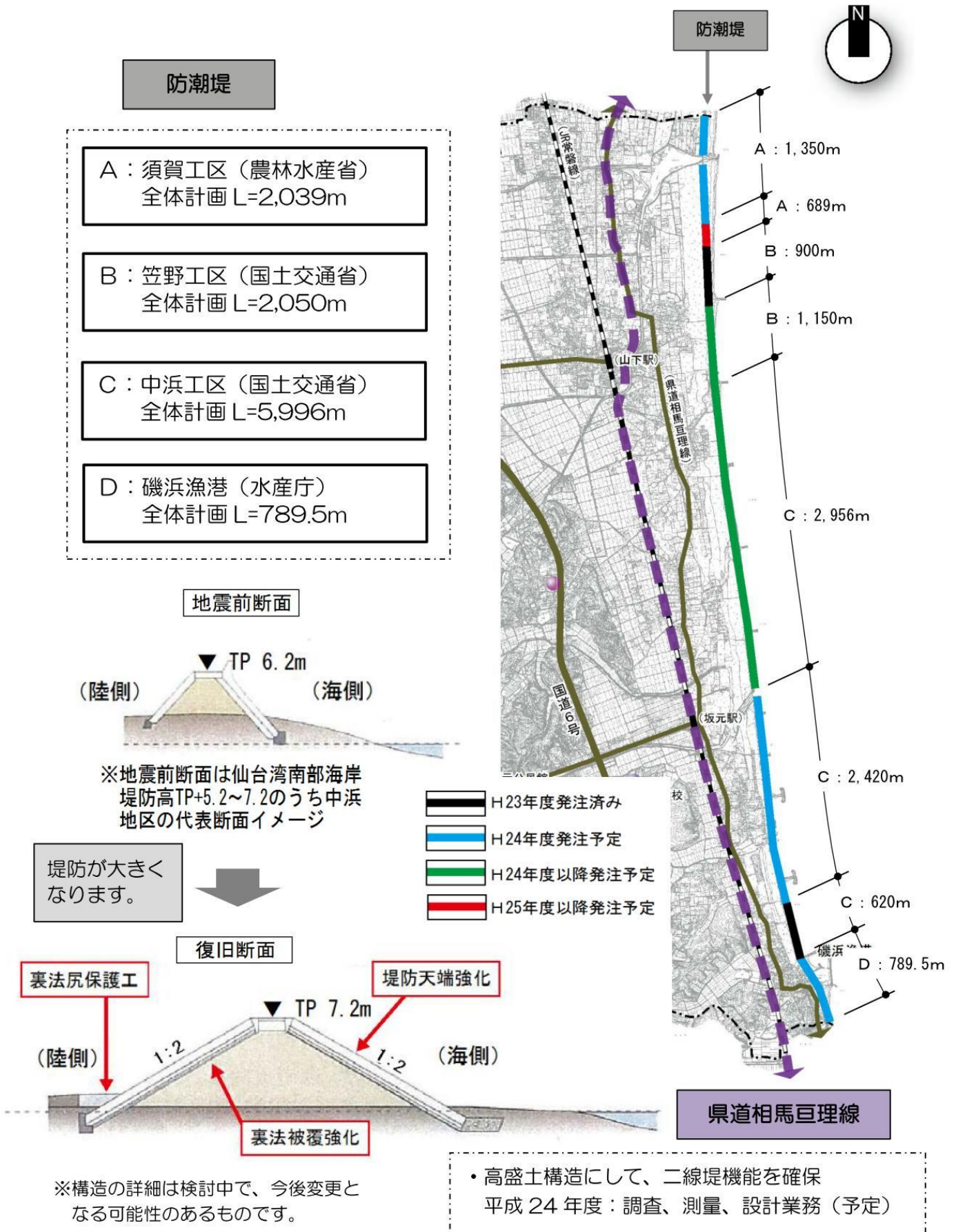
- ①山下災害公営住宅地区
 - ・現在、設計段階
- ②坂元災害公営住宅地区
 - ・現在、測量・地質調査に着手



【参考】福島県新地町営住宅



4. 防潮堤、県道相馬亘理線の整備について



国土利用計画について

1. 国土利用計画とは

- 国土利用計画は、国土利用計画法に基づいて策定されるもので、土地利用の行政上の指針となるものです。
- 町の国土利用計画は、町の総合計画（震災復興計画）に即すとともに、住民の意向を踏まえて策定し、都市計画や農業振興地域整備計画、森林計画などの指針となります。
- 町の国土利用計画は、町議会の議決を経て公表します。

2. 山元町国土利用計画について

(1) 基本方針

町土利用にあたっては、東日本大震災の被災状況を踏まえた災害に強いまちづくりを目指すとともに、これまでの町が抱えていた課題である「人口減少」、「少子高齢化」、「にぎわいと創出」などを考慮し、若者からお年寄りまですべての世代が便利で快適に暮らせるようなコンパクトなまちづくりを行うものとしています。

■目標

便利で暮らしやすい、コンパクトで災害に強いまちづくり

- ①山元町震災復興計画を踏まえ、町土利用の再構築を行います。
～JR常磐線の内陸側への移設やそれに伴う市街地整備～
- ②本町の地理的条件や歴史的風土など、地域特性を活かした整備を行います。
- ③自然と調和した生活・生産環境を形成します。
- ④限られた町土資源を有効に利用します。
～町土の保全や安全性の確保～
- ⑤土地需要の適正誘導と、土地の有効利用を促進します。
- ⑥新駅を中心とした拠点づくりを行います。
～都市機能の集積～
- ⑦防災機能に配慮した道路網の再編と、常磐自動車道延伸による高速交通体系の整備効果を活かした新たな土地利用の展開を図ります。

(2) 目標年次

- ・計画の目標年次は、震災復興計画と同じ平成30年とします。

(3) 土地利用構想図(案)

- ・基本方針で掲げた「便利で暮らしやすい、コンパクトで災害に強いまちづくり」の実現に向け、土地利用構想図を以下のように定めます。

